

■■■ 福祉社会学会ニューズレター 第 37 号 ■■■  
Japan Welfare Sociology Association Newsletter No.37

<http://jws-assoc.jp/>  
E-mail: [ws@univcoop.or.jp](mailto:ws@univcoop.or.jp)

\*\*\*\*\* INDEX \*\*\*\*\*

- 事務局からのお知らせとお願い
- 大会関係
- 2015年度活動方針
- 第7期福祉社会学会役員等一覧
- 会長挨拶
- 第3回福祉社会学会賞 選考結果
- 第14回大会のお知らせ
- 『福祉社会学研究』第12号刊行と第13号の投稿募集
- 理事会報告
- 新入会員紹介

■事務局からのお知らせとお願い

●6月大会総会にて新役員構成が承認されました。これを受けて、学会事務局所在地が以下のように変更になりましたのでご注意ください。

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1 立命館大学産業社会学部  
鎮目真人研究室内 福祉社会学会事務局

●住所変更やEmailのアドレスを変更された場合は、必ず大学生協・学会支援センター・福祉社会学会担当宛 ([ws@univcoop.or.jp](mailto:ws@univcoop.or.jp)) お知らせください。年度末に毎回十数通の不着が発生します。周辺でNewsletterを受信できていない方がいる場合は学会アドレスまでご連絡くださいますようお願いいたします。

■大会関係

【第13回大会】 第13回福祉社会学会大会が、去る2015年6月13日・14日に名古屋大学東山キャンパスにて開催されました。参加者は110名でした。

【総会報告】 大会初日の午前中に理事会(新旧合同)が開催され、諸案件について承認・決定されました。これを受けて、2日目午後に総会が開催されました。総会の開始にあたり三重野卓会長の挨拶に続き、上村泰裕大会実行委員長からの挨拶がありました。引き続き金子雅彦会員(防衛医科大学校)が議長に選出され、議長の進行のもと報告と審議が行われました。

●報告事項・審議事項

1. 庶務・事務局：高野庶務理事・事務局長より、学会の現況について以下の報告があった。(1)2015年6月12日現在の会員数は470名である。(2)会費納入状況は9割を上回っている。
2. 研究委員会：須田研究委員長より以下が報告された。(1)2014年度は大会シンポジウムの企画運営を進めるとともに、研究会を5回開催した。(2)今期はメール会議を活用して委員会を開催し、経費削減を行った。研究会のあり方などを含め、次期委員会への引き継ぎを行うこととした。
3. 編集委員会：白波瀬研究委員長(代理高野庶務理事)より以下が報告された。(1)『福祉社会学研究』

- 12号が刊行された。(2)自由投稿論文の提出、査読等を電子ファイルで行い効率化を図ったが、自由投稿論文の掲載数を増加させる必要がある。また、会員の書籍情報は自己申告方式であるため十分収集できなかった。(3)電子ジャーナル化について次期委員会に申し送った。
4. 社会政策関連学会協議会：三重野担当理事より以下が報告された。(1)2014年度は2つのシンポジウム、フォーラムを開催した。なかでも、2015年5月16日に福井市で開催された「地域の魅力を考える一仕事と暮らしを支える社会政策とは一」は盛会であった。
  5. 2014年度決算の提案・監査報告：高野庶務理事より2014年度決算案が提示され、同案に関して、会費納付率9割程度を維持していることや大会開催校からの寄付等を通じて黒字が達成されたことなどが補足され説明がなされた。引き続き、松原一郎監事より、松原一郎・牧園清子両監事による同案の監査報告が示され、承認された。
  6. 2015年度活動方針の提案：高野庶務理事より「2015年度活動方針案」が提示され、承認された。
  7. 2015年度予算の提案：高野庶務理事より2015年度予算案が提示され、2014年度とほぼ同規模の予算案であることを中心に説明がなされ、同案が承認された。
  8. 機関誌発行元の見直しの提案：高野庶務理事より機関誌の発行元を2015年度刊行の13号より株式会社学文社に委託する案が提示され、承認された。
  9. 顧問の推薦について：三重野会長より理事会の推薦を経て会長から武川正吾会員を顧問に推薦する案が提示され、承認された。その後、武川会員より挨拶が行われた。
  10. 選挙管理委員会報告：山井理恵委員長の代理で高野庶務理事より選挙結果について報告があった。理事外会員2名と理事2名の4名によって選挙管理委員会が構成され(山井会員、米澤会員、田淵理事、高野理事)、厳正な開票作業の結果、以下10名を当選とした(50音順：井口高志、稲葉昭英、鎮目真人、白波瀬佐和子、須田木綿子、高野和良、平岡公一、藤村正之、三重野卓、山田昌弘)。
  11. 新役員構成の提案：高野庶務理事より新役員について提案がなされ、承認された。また、新理事(選出理事・推薦理事)と役割分担について報告され、委員会構成案について報告がなされた。藤村正之新会長による挨拶が行われた。
  12. 第3回福祉社会学会賞表彰：安立学会賞選考委員長より以下が報告された。(1)第3回福祉社会学会賞の選考を行い、会員及び選考委員から推薦のあった学術賞4件、奨励賞9件の候補について審査を行った結果、学術賞2件、奨励賞3件を受賞作とすることを決定した。(2)対象は以下の通りである。学術賞：大岡頼光、2014、『教育を家族だけに任せないー大学進学保障を保育の無償化から』勁草書房。丸山里美、2013、『女性ホームレスとして生きるー貧困と排除の社会学』世界思想社。奨励賞：秋風千恵、2013、『軽度障害の社会学ー「異化&統合」をめざして』ハーベスト社。深田耕一郎、2013、『福祉と贈与ー全身性障害者・新田勲と介護者たち』生活書院。三谷はるよ、2014、『市民活動参加者の脱階層化』命題の検証ー1995年と2010年の全国調査データによる時点間比較分析』『社会学評論』65(1)：32-46。(3)その後、三重野会長より受賞者に学術賞・奨励賞の授与が行われた。
  13. 第14回大会開催校の提案：高野庶務理事より、2016年大会を奈良女子大学で開催することが決定したことが報告され、開催校の井口理事より挨拶があった。
- その後、高野庶務理事が閉会を告げ、第13回大会総会はつつがなく終了しました。

---

## ■2015年度活動方針

---

1. 福祉社会学会は、これからも、福祉(welfare, well-being)や社会政策の社会学に関心を持つ研究者中心の学術団体として活動していきます。
2. 第13回大会を、2015年6月に名古屋大学で開催します。2016年度開催の第14回大会についても、その準備を進めていきます。
3. 機関誌『福祉社会学研究』の第13号の刊行に向けて、編集作業を進めていきます。
4. 大会に加えて、多様な研究テーマに基づく研究活動に積極的に取り組みます。
5. 日本学術会議の協力学術研究団体として、いっそう他の学術団体との連携につとめていきます。
6. 機関誌のJ-STAGEへの掲載など、研究成果の公開や対外的発信にいっそうつとめていきます。
7. WebやEmailを活用し、事務の外部委託による効率化などによって、会員への情報・サービス提供の充実と事務作業の簡便化を進めるとともに、確実な情報提供につとめていきます。

---

## ■第7期福祉社会学会役員等一覧

---

### 役職者構成

会長	藤村正之（上智大学）		
副会長	平岡公一（お茶の水女子大学）		
庶務理事	鎮目真人（立命館大学）		
研究委員長	稲葉昭英（慶応義塾大学）		
編集委員長	高野和良（九州大学）		
理事（50音順）	井口高志（奈良女子大学）	上野加代子（徳島大学）	亀山俊朗（中京大学）
	菊池いづみ（日本社会事業大学）	白波瀬佐和子（東京大学）	下夷美幸（東北大学）
	須田木綿子（東洋大学）	寺田貴美代（新潟医療福祉大学）	三重野卓（帝京大学）
	山田昌弘（中央大学）		
監査	牧里毎治（関西学院大学） 要田洋江（大阪市立大学）		
顧問	副田義也（筑波大学名誉教授） 庄司洋子（立教大学名誉教授） 武川正吾（東京大学）		

### 研究委員会

委員長	稲葉昭英	副委員長	井口高志	
委員	平野寛弥（目白大学）	森川美絵（国立保健医療科学院）	白波瀬達也（関西学院大学）	
	岩田美香（法政大学）	室田信一（首都大学東京）		

### 編集委員会

委員長	高野和良	副委員長	亀山俊朗	
委員	上野加代子	片桐資津子（鹿児島大学）	菊池いづみ	下夷美幸 寺田貴美代
	米澤旦（明治学院大学）			

社会学系コンソーシアム・評議員 白波瀬佐和子 須田木綿子

社会政策関連学会協議会・協議員 平野寛弥 三重野卓

学会賞選考委員会

委員長 山田昌弘

事務局

事務局長 鎮目真人

---

## ■会長挨拶

---

会長就任にあたって

藤村正之（上智大学）

思いがけず、天から役がふってきた感じですが、理事の皆さまのご判断にしたがい、会長職をお引き受けすることといたしました。学会の設立当初から理事を務めさせていただきましたが、その時は私が年少のほうだったと記憶しています。その私が会長に就任するということが、世代の移り行きがひと回りというところなのかもしれません。幸いにも、選挙ならびに推薦で選ばれた理事の皆さまには中堅以上の多士済々な有力な方々が揃いましたので、学会運営のほうはつつがなく進められるものと考えております。

福祉社会学会も設立12年を経過し、学会運営に関するおおまかなところは軌道にのり、安定期に入りつつあるように見受けられます。それゆえに、学会運営のより簡便なシステム化を進めるとともに、皆さまの声をきかせていただきつつ、社会背景や学問環境の変化に応じた新しい試みが求められる段階にあるともいえるかもしれません。

私たちは数えて7期目の理事会となります。ラッキーセブンよろしく、幸運にも恵まれることを期待しつつ、長いようで短い2年間の任務にあたってまいりたいと思います。会員の皆さまのご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

---

## ■ 第3回福祉社会学会賞 選考結果

---

### (1) 選考経過

第3回目である今回の選考は、2013年1月から2014年12月までの2年間に刊行された研究業績が審査対象となった。学術賞の受賞資格者はすべての会員、受賞対象は単著の著書であり、奨励賞の受賞資格者は修士課程入学後13年以内もしくは博士課程入学後11年以内の会員、受賞対象は単著の著書あるいは本学会誌または他の学会誌等に掲載された査読付の論文である。

2015年1月に推薦の受付を開始し、推薦方法などをニューズレターで告知するとともに学会HPへアップし、学会HP上で推薦手続きができるようにした。2015年1月から2月までを受付期間として、会員および選考委員から推薦を受けた結果、学術賞4件、奨励賞6件、奨励賞論文3件の推薦があった。

これらの候補作について5人の選考委員がすべての候補作を審査したうえで、2015年5月30日に選考委員会を開催し審議した結果、以下のとおり、学術賞2件、奨励賞3件を受賞作とすることを決定した。

### (2) 学術賞

・大岡頼光 『教育を家族だけに任せない—大学進学保障を保育の無償化から』勁草書房、2014年

#### (受賞理由)

少子高齢化をめぐって福祉社会学では多くの研究や議論が重ねられてきたが、少子化と密接な関わりを持つ教育政策を扱った研究は少ない。本書は、福祉社会学的な視座から、主にスウェーデンとの比較において日本の高等教育と就学前教育をめぐる政策課題を論じた研究である。

著者は日本における、子どもが担う老親介護負担の大きさと、親が担う子どもの教育費負担の大きさととの背後に、共通要因としての「家族主義」を見出す。スウェーデンにおいて大学の教育費負担をめぐる「親負担主義」が廃止された経緯の検討を踏まえ、親の所得格差が大学進学への格差を生むという現状を変えるためには、奨学金制度の充実といった制度変革を通じて、親からの若者の自律を保障することが求められると著者は論じる。更に、大学進学保障の前提として、普遍主義的な立場から保育・就学前教育の無償化が進められるべきと論じられる。子どもの教育は社会が責任を担うべきという観点から、保育から大学進学までの教育費負担の問題を統合的に扱っていることが、本書の特徴である。

本書の貢献は、独自の視点から教育政策への福祉社会学的アプローチというフロンティアを切り拓いたことと同時に、公共社会学的な観点から、社会福祉、社会保障をめぐる制度設計のあり方を正面から論じたことに求められるだろう。福祉社会学のこれからの研究展開に貢献する意欲的な著作であり、本学会学術賞に値すると選考委員会は判断した。

・丸山里美 『女性ホームレスとして生きる—貧困と排除の社会学』世界思想社、2013年

#### (受賞理由)

既存のホームレス研究において排除されてきた女性ホームレスの実態を、参与観察を中心とした調査を基に実証的に明らかにした力作である。

著者は、構造と行為は相互に影響を与えあう関係性にあるとの視点から、その多様な関係性の中で女性ホームレスの存在や生活に複数のリアリティがあることを立証し、女性ホームレスを理解するための新しい視角を提示している。この点は、本研究独自の高い意義といってよいだろう。何よりも、女性ホームレスという研究対象の主体的意味世界に忠実に収集された調査データの質が高いため、それに基づく彼女たち自身の行為選択の過程の描出と分析が強い説得力をもっている。

また、福祉制度とジェンダーの関わりや、女性ホームレスが従来の研究から排除されてきた理由についての考察も示唆に富む。特に、男性を、あるいは自立した主体を、無自覚に前提としてきた既存の研究を批判的に問い直し、女性ホームレスの実態解明から得られた知見をもとに、研究上の視点や概念規定を再検討する理論的考察は、福祉社会学的研究の今後の理論的展開に貢献する議論となっている。

既存研究にはない独自の主題設定と実証的調査、既存研究の適切な批判的検討を通じた理論的考察からなる本書は、福祉社会学の研究書として高い評価を受けるに値し、学術賞の受賞対象としてふさわしいものと判断する。

### (3) 奨励賞

・秋風千恵 『軽度障害の社会学—「異化&統合」をめざして』ハーベスト社、2013年

(受賞理由)

本書は、「障害の可視性や重さが生きづらさに比例する」という一般社会通念を、「軽度障害」を対象として批判的に検討したもので、健常と障害のグラデーションのなかにいる人々がどのような社会的不利を経験しているのかインタビューデータのていねいな解釈によって描いている点が印象的である。

「軽度障害」を対象化するうえでの理論的作業にはまだ課題も残っており、各章の記述も明解ではあるがもの足りなさも感じられる。しかし、「健常」に収斂されやすい「軽度障害」という困難な研究課題に正面から取り組んだ姿勢は高く評価できるし、近年盛んになりつつある「容貌の障害」などの研究の発展と相まって、福祉社会学の今後の理論的研究に貢献するものとして評価できる。

・深田耕一郎 『福祉と贈与—全身性障害者・新田勲と介護者たち』生活書院、2013年

(受賞理由)

本書は、日本における自立生活運動を主導した人物のひとりである新田のライフヒストリーと自立生活運動の同時代史の関わりを検討しながら、筆者の新田への介護者としての関わりと関係者への分厚いインタビューなどを踏まえて、福祉を「贈与」として立ち上げることは可能なのか、というラディカルな問いを突き詰めようとした労作である。福祉が贈与として立ち上がりうることを新田の事例から例証しつつ、それが自立生活運動へとどうつながり（あるいはつながらず）、その過程で「相互贈与」として福祉の贈与論からの一般化・普遍化が可能なのかという困難で深い問いにもつながっており、福祉社会学に関わる多くの問題提起を含んでいる。

・三谷はるよ 『『市民活動参加者の脱階層化』命題の検証—1995年と2010年の全国調査データによる時点間比較分析』『社会学評論』65(1)：32-46。

(受賞理由)

市民活動参加者には高い階層の者が多いという命題について、近年、階層と参加の関連が弱まってきた（市民活動参加者の脱階層化）という命題が提示されてきたが、本当に脱階層化が進んだのかについては明確な結論が得られていなかった。本論文は、我が国の1995年と2010年の2時点における横断的調査データの比較検討を通じて、「市民活動参加者の脱階層化」命題を検証した論文である。

本論文は、内外の理論的、実証的先行研究を的確に整理した上で明確な分析課題を設定している。また、いわゆるマルチレベル分析を行い、地域が持つ特性をコントロールし、階層の効果を的確に吟味している。さらに、分析の結果得られた知見から、脱階層化の意味に関して政策的にも興味深いインプリケーションを得ていることも注目すべきであろう。

今日の福祉社会学研究においては、福祉社会の構造や変動を明らかにする定量的な研究は相対的に少ない。その意味でも本研究は、福祉社会学のこれからの研究展開に資する論文であり、本学会奨励賞に値すると選考委員会は判断した。

---

## ■第14回大会のお知らせ

---

福祉社会学会第14回大会は、2016年に奈良女子大学で開催されることになりました。  
詳細は決まり次第、ニューズレターおよびホームページでお知らせいたします。

---

## ■『福祉社会学研究』第12号刊行と第13号の投稿募集 第13号の投稿締切は9月7日必着です

---

●【第12号の刊行】 『福祉社会学研究』第12号(Journal of Welfare Sociology, No.12)が刊行されました (ISSN 1349-3337 ISBN 978-4-7989-1296-7 C3036)。目次は以下のとおりです。

■会長講演

「福祉」の測定から幸福度へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・三重野卓  
——数量化をめぐる半世紀を振り返る

■特集 生きる場から構想する福祉社会学

特集「生きる場から構想する福祉社会学」に寄せて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・三井さよ

贈与の福祉が生まれるところ・・・深田耕一郎  
——生の技法としての参与観察  
ケアの倫理と福祉社会学の架橋に向けて・・・岡野八代  
——ケアの倫理の存在論と社会論より

■自由論文

国際移住高齢者のケア戦略・・・上野加代子  
——チェンマイでの調査から

■特別企画

福祉社会学の成果と課題・・・副田義也・武川正吾・藤村正之・庄司洋子  
——『シリーズ福祉社会学[全4巻]』編者座談会

■書評

木戸功『概念としての家族』・・・榎田美雄  
山田宣廣『住民主導の地域福祉理論』・・・室田信一  
松木洋人『子育て支援の社会学』・・・堀 聡子  
ダルク研究会編著『ダルクの日々 薬物依存者たちの生活と人生』・・・野口裕二  
有吉玲子『腎臓病と人工透析の現代史』・・・武藤香織  
後藤広史『ホームレス状態からの「脱却」に向けた支援』・・・岡部 卓  
荒井浩道『ナラティブ・ソーシャルワーク』・・・相良 翔  
大岡頼光『教育を家族だけに任せない』・・・所 道彦  
近藤理恵『日本、韓国、フランスのひとり親家族の不安定さのリスクと幸せ』  
・・・湯澤直美

■世界社会学会議横浜大会「世界へのメッセージ」福祉社会学会寄稿

A Challenge of Japan's Welfare Society : Message to the World from the Japan Welfare Sociology Association・・・Shogo TAKEGAWA, Rokuro TABUCHI, Yuko SUDA and Norihiro HIHEI

■福祉社会学会会員からの書籍情報

●【『福祉社会学研究』第13号の原稿募集について】

下記要領で、『福祉社会学研究』第13号の自由投稿論文を募集します。投稿資格は、本会会員に限ります。2015年度の加入者については、6月の大会時までに入会済みであることが条件となります。

1. 論文の種類、自由投稿論文：福祉社会学研究の学術論文とします。なお、投稿資格は、本会会員に限ります。
2. 掲載の可否：レフェリーの査読結果に基づき、編集委員会が決定します。
3. 締め切り：2015年9月7日（月曜日）（23時59分までに必着）
4. 論文の分量：20,000字以内とします。スペースは字数に含めません。
5. 投稿規程、執筆要領：投稿規程、執筆要領は学会ウェブサイト等できちんと確認してください。論文の分量が超過するなど、執筆要領が守られていない場合には、投稿論文を受け付けません。投稿は紙媒体ではなく電子ファイルで行います。投稿する場合には、ワードの文書ファイルの形式で、メールにて下記編集委員会事務局までお送りください。かならずファイルのバックアップを取った上で、必要に応じてパスワードを付けてください。その場合には別のメールにてパスワードをお知らせください。紙媒体の提出は一切必要ありません。
6. 自由投稿論文提出先、問い合わせ先：投稿受領後に受領通知をお知らせします。受領通知の発行をもって、論文の投稿が成立します。投稿後1週間以上経過しても受領通知が到着しない場合には、編集委員会事務局までお問い合わせください。

〒204-8555 東京都清瀬市竹丘三丁目1番30号

日本社会事業大学社会福祉学部 菊池いづみ研究室 福祉社会学会編集委員会事務局  
(メールアドレス jws-henshu★hes.kyushu-u.ac.jp ←★を@に変えてください)

---

■理事会報告

---

●2015年度 第1回理事会 議事録（前掲総会報告と重複する部分を一部省略）

日時：2015年6月13日 11時～12時30分

場所：名古屋大学東山キャンパス全学教育棟3階C344

出席者：安立、井口、稲葉、岡部、亀山、鎮目、杉岡、須田、高野、寺田、藤村、三重野、山田  
議事に先立って三重野会長の挨拶、新旧理事の自己紹介が行われた。

●報告事項・審議事項

1. 第13回大会運営について：実行委員長の上村理事より開催・運営に関して報告があった。
2. 研究委員会報告：須田委員長より、引継事項を含めて報告があった。
3. 編集委員会報告：白波瀬委員長（代理高野庶務理事）より、引継事項を含めて報告があった。
4. 学会賞選考委員会報告：安立理事より、第3回学会賞選考の経緯と結果について報告があった。
5. 社会学系コンソーシアム報告：稲葉理事より報告があった。
6. 社会政策関連学会協議会報告：三重野理事より報告があった。
7. 2014年度決算案の承認・監査結果について：高野庶務理事より決算案と監査結果の説明があり、審議の結果、決算案を承認した。
8. 2015年度活動方針案について：高野庶務理事より原案が提案され、協議の上、総会に諮ることを承認した。
9. 2015年度予算案の承認について：高野庶務理事より2015年度予算案の説明があり、審議の結果、総会に諮ることを承認した。
10. 機関誌発行元の見直しについて：高野庶務理事より機関誌の発行元を2015年度刊行の13号より株式会社学文社に委託する案が提示された。協議の上、次回の見直しにあたっての手続きのあり方について今後検討を進めること、契約書は次期編集委員会で検討し理事会で承認を得ることとして、発行元の変更を承認した。また、総会に諮ることを承認した。
11. 大学生協学会支援センターとの委託契約継続について：大学生協学会支援センターへの事務委託契約の継続について、審議の結果継続することを承認した。
12. 顧問の推薦について：武川正吾会員を顧問に推薦する案が提示され、承認された。
13. 選挙管理委員会報告／新役員の構成について：選挙管理委員の高野庶務理事（山井理恵委員長の代理）より理事当選者の報告があった。引き続き、新理事及び役割分担案について原案通り承認され、総会に提案することとなった。また、委員会構成について提案され、承認された。
14. 次回第14回大会開催について：第14回大会は2015年6月（予定）に奈良女子大学にて開催予定であることを承認した。
15. 新規入会者の承認、退会希望者の確認、会員状況報告：高野庶務理事より会勢報告があり、一般会員は6月12日現在で470名であること等が報告された。引き続き、新規入会者11名の承認と退会者の確認が行われた。
16. 総会の運営について：高野庶務理事より総会の議事次第案が提案され、審議の結果これを承認した。
17. 次回理事会（2015年度第2回）を2015年12月26日（土）14時から開催することを決定した。

---

## ■新入会員紹介

---

理事会（2014年度第2回理事会、新旧合同理事会）で、以下の方々の入会承認がなされました。

（Web版では省略）

【発行・編集】 福祉社会学会事務局